



吳羽化學爭議 強制調停に入る

吳羽化學の安協案を蹴ししは一般消費者にとつては、吳羽化學従組一千は益嬉しい話である。余に及ぶも僅かに數ヶ條の坑道に依つて上層炭の採掘を容認を得たのみで停滯状態に入つてゐる。勞組側は宜を策した現在従業員百餘名を勵しつゝ圓滿な解決を希望する。中流炭礦として會社側に今一段の考慮して明な存在を示すに至つてを求めてゐる。秋は一塊のた、然も精炭は四台の自家石炭を要してゐる。速に勞資間の完全提携を望むや切なるものがある。

小澤代議士 講演會開催

去る十八日小澤代議士第一小學校講堂に於て夕刻六時より民主黨總務小澤代議士の講演會を開催、縣議小野義一、連沼龍輔兩氏の應援演説に續いて小澤代議士の議會報告があり終つて座談會に移り炭礦國管野農相追放等の問題に質問應答あり十時頃盛會裡に閉會した。

平市今後の 主食配給見透し

平市に於ける今後の米の配給状態は現在手持米五千俵で會津から入荷する新米一万一千五百俵、早稲さつまいろ一万一千六百七十九俵に十月分割當の小麥粉三万三千キロがある。操作は縣で生施設の充實等三十七ヶ條米八〇パーセント他はさつまいろと折衝中であるが已に月

高萩炭礦 の爭議

高萩炭礦勞組は賃金賞與退職手當の確立、福利厚きをなす最高月産四十噸に過ぎなかつた、然るに昭和十九年三好參司氏の經營に移つて以來従來の露天掘に工夫を重ねて擴張し他面水平

炭礦見聞記 植田炭礦の巻

石城郡上遠野村に在り植田縣より十二軒鮫川を跨へて小富士山麓下に幾多の小丘の隆起せる間に於て鑛區面積三十六萬餘坪三好參司氏の個人經營である。昭和十五年小林金重氏に依つて開採せられたが僅かに數人の職員をして採掘的露天掘

タイ寸言

◆配給は薄ばかり、これで千八百圓ペースも維持できません
◆二合五勺は堅持しますと政府の聲、忘れちゃいやよ忘れないでねどは國民の聲
◆今度まだ、異樹園に税

平市五丁目
電話九番九番九番
電話九番九番九番

金がかゝるごか髪の毛に税金が掛らなければ良いが
◆慈善切手が發行になる由政府の願の良さの見せご
◆近く列車の運轉が制限されます
◆物資の輸送は御早く願ひます。民主化された譯員の言葉か

四人の息子

イングリッド・バードマン
スーザン・ヘイワード主演
十一月廿五日より

素浪人罷通る

スロウ・ブレイク主演
十一月廿五日より上映

世界館

代議士 小澤專七郎

關内正一

代議士

縣會議員
馬目武之助
縣會議員
蓮沼龍輔

合資會社
東亞電球工業所
平市月見町
電話一〇二六番

東信製紙株式會社
平市工場
平市月見町
電話七四九番

株式會社
平鐵工所
平市大工町
電話二四四番

片倉工業株式會社
平製絲所

平市五丁目
平製氷株式會社
電話六三四番

堅牢低廉
一式家具
倉造
具所
野飯郡城石
村瀨川谷
作ノ吉板
全板

職業安定所の珍現象

●就業意欲の低下
平公共職業安定所の調査に、炭礦、黒田炭礦の四礦だけ
依れば、來春新制中學校を卒業した者、就職意欲が
業するもの、請求職希望状態
は石城郡と平市で、全卒業生
は男女合計六、八八九名で、
求職希望者は男女合計三九
三名で、約二十パーセント
となつて、求人数は工業
公務、織維、運輸、通信業關
係で合計五百四十八名となつ
て、求職者が求職者を上回つてゐ
ることは珍現象である。

労働基準法講習會開かる

労働基準法講習會は去る十
八日、二十日の兩日に亘つ
て平市公會堂日本間に於て
開催された、今後労働者の
使用者は労働基準法規を良
く知り違反のなき様注意を
要するものである。

日立労働組樂團

水素従業員慰安
去る十九日日本水素講堂に
於て日立製作所労働組員が水
素従業員慰安大會を催し、從
業員感謝の裡に閉會

今月上旬の 出炭成績

新日本再建を旨に、敢て開し
てゐる常磐炭礦今月上旬の
出炭量は目標九萬五千三百
六十トンに對して七萬三千
三百九十八トンで二萬二千
三百九十トンの減炭、遂行
率は八六・五パーセントで
あつた、此れは稼働日數の
爲であつて目標突破は東北
で常磐炭礦、戸部炭礦、三松

浪江學童の 蝗取り

浪江小學校では一年生より
於て日立製作所労働組員が水
素従業員慰安大會を催し、從
業員感謝の裡に閉會

植田地區借地 借家人組合結成

不當なる地主家主に對し排
敵し善なる地主家主の支會も
援の下、生活基盤確立のため
援の下、生活基盤確立のため
援の下、生活基盤確立のため

浪江の十日市

浪江の十日市は鎮守出羽神
社大祭を中心として二十三
日、二十四の三日間に
亘り盛大に行はれてゐる市
場は各種展覽會、興行物、
神社奉養會は各町内より子
神輿、山車、神樂、民謡等
で入出は數十萬を豫想され
てゐた。

江田信號所に驛 設置運動始まる

石城郡小川村と川前村を中
心に隣接の赤井三阪永戸の
各村が一丸となり小川郷地
内の磐城東線江田信號所に
驛を新設されたいと東鐵及
び仙鐵に陳情、磐城觀光協
會もこれに協力して猛運動
を開始致し去る十一月初旬
に水戸管理、福島管理、小
川各關係者が小川郷驛長小
川赤井各村長等と共に江田
信號所を視察した、尙江田

直ちに組織の方に依つて目
的貫遂のため運動を開始す
るべきになつた、當日松井
政吉氏、佐藤安次氏の出席
を乞へ、特に松井氏より時局
問題と借地借家人の権利の
義務等法的に或は常識的の
説明講演があり多大の感銘
を與へた。

平銀行組合

平市五丁目
田口辰雄

平鐵工業組合

平市五丁目
大竹芳之助

株式會社 大阪造船

平市五丁目
小野榮一

片寄保

平市驛前
伊東一

馬芝變

在日本朝鮮人聯盟
福島縣石城支部
委員長
馬芝變

平市驛前
いづみや商店
電話三四八番

外食券の店
お辨當のお菜に
罐製料理を

住吉屋
平市驛通り
電話一四九番

キモノと洋服
親切高價買入
平市驛前白銀通り

福屋
京屋染工場へ
平市南町大通り
電話六九四番

事務用品文具房具
元賣發簿帳印助福

尾張屋商店
目丁五市平縣島福
番七四九話電

神谷工業原料
株式會社
取締役社長
神谷兼次郎
平市田町
電話五、六番

安田火災保險代理店
三井生命保險代理店

製材、製函
木工、坑木
炭礦用諸材
薪炭
炭

佐藤材木店
製材工場 浪江驛前
自動車部 電話七二番

自宅 浪江町下柳町
電話六三番

取引銀行 常陽銀行 浪江支店
東邦銀行 浪江出張所